

令和3年度 第2回公立鳥取環境大学教育研究審議会 議事要旨

- 日 時 令和3年11月4日(木) 10:00～11:30
- 場 所 多目的ホール (Webexによるオンライン会議)
- 出席者 江崎信芳委員、足羽英樹委員、宇佐美誠委員、尾室高志委員、片木威委員、
田中仁成委員、今井正和委員、遠藤由美子委員、小林朋道委員、矢野順治委員
[10名/11名]
- 欠席者 田村文男委員

【議事】

1 前回議事要旨の確認

原案のとおり承認された。

2 審議事項

(1) 令和4年度における重点取り組み事項について

事務局から、令和4年度における重点取り組み事項について説明があり、原案について承認された。

〈主な意見等〉

- ・現在の授業はどのような方法で実施されているのか。
→ (回答)：基本的に対面で授業を行っているが、受講者数の多い科目については、講義室の広さの都合上、オンラインで行っているものもある。また、健康に不安が教員はオンラインで授業を行っている。語学等の科目については広い講義室を使い対面で行っている。
- ・資料では、新型コロナウイルス感染症が収束しているような書きぶりに見えるが、ウィズコロナの時代において、対面授業とオンライン授業の組み合わせ方について、今後オンライン授業のメリットとデメリット、対面授業のメリットとデメリットを精査して、重点取り組み事項に入れるかどうかを含めて検討してはどうか。
→ (回答)：今後は従来にはなかったようなことにも挑戦していきたい。また、板書を学生が書き写して理解するといった従来の授業の形式ではなく、事前に学習してほしいことをオンライン教材で渡して学生が勉強し講義の場では、ディスカッションを行う、反転授業に取り組んでいる教員も増えてきているので、そのようなことを重点事項に含めることを検討したい。
- ・今年度から鳥取県の小・中学校では一人1台情報端末を持ち、探究的学習を行うGIGAスクール構想の取組が始まり、来年度からは高校生にも一人1台情報端末を持つような取り組みを行う予定である。情報機器での学習に慣れた高校生が大学に入学することで、教育研究が従来よりも一歩進んだ状態で始めることができたり、より深まった学習ができるのではないかと思う。来年度より先については、学びの変化、学びの深まりを経験した学生が入ってくることを踏まえて重点的取り組み事項の教育研究の部分を検討してほしい。
- ・AO入試に本県の高校生が挑戦してくれたということをうれしく思っているが、(5)、(6)あたりに関係すると思うのだが、鳥取県教育委員会では小学校から中、高、大学までを意識した「ふるさとキャリア教育」という視点を基軸として、子供たちがそれぞれの発達段階で学びの積み上げをキャリアパスポートという、共通の集積していく仕組みをもって、高校生まで学びを積み重ねていき、鳥取に生まれた子ども達が、鳥取に残ろうと残らまいと、ふるさとにしっかりと根差

した、あるいは、誇りや愛着を持つ、そういう子ども達の育成を目指した取り組みをあらゆる場面で発信しながら、積み上げをしているところである。

そういう意味で県内高校との関係強化と（５）のあたりにふるさとキャリア教育の１つの延長線上に地元の公立鳥取環境大学があるということを意識した形をとっていただけるとありがたいと思う。

- ・ 県外オフィスの機能の集約とあるが、コロナ禍で県外オフィスを縮小する計画があるのか。
→（回答）：コロナ禍で県外でも活動が制限される中、県外にオフィスがあることは費用対効果あまり良くないため、県外オフィスの機能や人員を大学本部に集約する予定である。人員を本部に集めて県外への対応は出張にて行う。

（２）新型コロナウイルス感染症に伴う学生の休学に関する公立鳥取環境大学学則及び公立鳥取環境大学大学院学則の特例を定める規則について

事務局から、新型コロナウイルス感染症に伴う学生の休学に関する公立鳥取環境大学学則及び公立鳥取環境大学大学院学則の特例を定める規則について説明があり、原案について承認された。

（主な意見等）

- ・ 特になし

3 報告事項

（１）令和２年度業務実績評価書について

事務局から、令和２年度業務実績評価書について報告があった。

（２）補正予算の専決について

事務局から、補正予算の専決について報告があった。

（３）開学 20 周年記念事業の実施状況について

事務局から、開学 20 周年記念事業の実施状況について報告があった。

（４）公立鳥取環境大学学長の再任審査結果及び設置者への任命について

事務局から、公立鳥取環境大学学長の再任審査結果及び設置者への任命について報告があった。

（５）近況報告

事務局から、近況について報告があった。

4 その他

5 閉会